

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 6月20日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694400013
法人名	株式会社 ハヤシ商事
事業所名	ガーデンハウス忠元
所在地	鹿児島県伊佐市大口里1564番地5 (電話) 0995-29-5007
自己評価作成日	平成28年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年3月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは、閑静な自然環境に恵まれた眺望の良い高台にあり、すぐ近くには桜名所の忠元公園があります。建物の周囲は一面に芝が広がる庭園でベンチが設置してあり、日常的に散歩や外気浴が行われています。健康保持の一環として毎朝健康体操を実施し、入居者様同士交流してお互いを気遣う関係も構築できるようにしています。建物は、九州の北海道といわれる伊佐の気候に配慮した寒さ対策が施され、木の温もりが感じられる構造になっています。居室にはナースコールを設置して安心を確保し、屋根にはソーラー発電を設置してオール電化を導入しています。事業所内は自由に往来でき、ユニット間の交流が図れるようになっています。敷地内には特別養護老人ホームがあり、慰問等がある場合は訪問して交流が行われています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○市街地より少し離れた高台に位置し、隣接して忠元公園があり閑静で自然豊かな環境である。開設して5年が経過し地域の住民にとって身近なホームとして周知され、日常的な友人知人の来訪や、施設の夏祭りには地域住民の多数の参加があり親密な交流が図られている。

○管理者及び職員は入所者の人格尊重の理念に沿って、利用者の尊厳や誇りを大切にしながら思いの把握に努め、住み慣れた地域の中で馴染みの人々と暖かく交流しながら安心・安全に、その人らしい生活が継続できるように支援している。本年度は接遇マナーを努力目標に定め、支援の場面ごとの留意点を詳細に記載したマニュアルを作成している。管理者は職員会議や申し送り時の研修で周知を図っており、特に言葉については日常のケアの中でもお互いに注意や意見交換を繰り返して改善を図っている。

○管理者は、職員間の協力体制及び利用者・家族との信頼関係の確立が、サービス向上に繋がると認識しており、日頃から要望や意見等の把握に努め、出された課題に対しては速やかに職員全体で改善を図っている。また、職員のスキルアップにも熱心に取り組んでおり、各種の施設内研修を計画的に実施すると共に、外部主催の研修にも各職員の状況に応じて意欲的に参加できるように配慮している。職員の資格取得や技術修得にも積極的にバックアップしており、信頼と協力体制を構築した働きやすい職場環境づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識でき、ケアの振り返りもできるように、朝礼時理念と本年度の目標を唱和している。	開設時に作られた理念は、目に付きやすい玄関や事務室に掲示し、毎朝の申し送り時に全員で唱和している。毎月開催の職員会議や勉強会、日常の支援の中で研修やケアの振り返りを実施して、理念の理解と理念に添ったより良いケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、清掃活動等の行事に参加している。事業所の夏祭りの案内も回覧板を利用させていただき、地域の方にも多数参加していただいた。定期的な保育園児との交流もある。	理念に地域に密着した事業の推進を掲げて、地域の人々との日常的な交流に積極的に取り組んでいる。自治会に加入して行事等を把握し、つるし雛の見学に出かけたり、奉仕作業等に参加している。事業所主催の夏祭りには家族や地域住民の多数の参加があり、また、定期的な保育園児の花のプレゼント、ボランティアによる歌や踊り、農作物のおすそ分けを頂く等の関係も出来ており、利用者はこれらの人達との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域や入居者の方も参加される運営推進会議で現状報告や事業所便りを配布して理解を深めていただいている。又、事業所主催の夏祭りには、地域の方にも参加していただき、入居者と職員の演技も披露している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を開催して入居者状況や事業所の取り組みについて報告している。率直な意見を出していただけるようにしている。</p>	<p>会議は利用者、家族、自治会長、市担当者等が参加して定期的に開催されており、利用者の現況や行事、ヒヤリハットの事例、外部評価の結果等の報告を行っている。市職員による制度の説明や、委員から地域の高齢者に関する情報等が出されるなど情報交換の場にもなっている。会議の内容は議事録で共有を図り、日々のサービス向上に務めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や地域密着型サービス連絡会、介護サービス事業者等連絡会で定期的に事業所の現状報告をしたり、直接出向いて助言や協力を得ている。</p>	<p>市担当者には運営推進会議や施設の行事に出席して貰い、また市が主催する研修等にも参加して情報や意見の交換を行っている。介護保険の更新や諸手続き等の際の訪問、電話による相談を行い助言・指導して頂くなど密に連携を図りサービス向上に取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の弊害について学習し、拘束を行わないケアに努めている。接遇マナーの向上を今年度の目標に掲げ、言葉による拘束もないよう努めている。</p>	<p>「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、権利の擁護と併せて定期的に研修を実施して周知を図っている。日中は施錠せず利用者の自由な暮らしの支援に努めており、職員間で日常的に振り返りや意見交換を行って拘束をしないケアを実践している。接遇マナーの向上を本年度目標にして「接遇マニュアル」も作成しており、特に言葉については拘束の無い尊厳に配慮したケアの実践に日々取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止についても学習し、安心して生活していただける環境が提供できるよう職員同士注意し合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度を利用されている入居者がおられる為、勉強会を行い制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居希望者や家族には事前に見学に来ていただき、パンフレットや重要事項説明書に基づいて説明し、納得していただいたうえで入居していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者との日常の会話や振る舞いの中で要望等は把握するように努めている。家族については面会時等、意向の確認を行えるように努めている。職員へは連絡帳や申し送り時報告し速やかに対応できるようにしている。	利用者の思いや意見は日常の会話や表情、所作の見守りで把握し、家族の意見や要望等は運営推進会議や家族会、来訪時の対話等を通じて把握に努めている。職員は「申し送り帳」や「業務日誌」で共有を図り、迅速に協議してサービスの改善に努めており、経過や結果は速やかに本人や家族にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別面談や職員会議、申し送り時以外にも、日頃から意見を聞くように心掛けサービスの向上に繋げている。	管理者は日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、意見や提案を業務の中や申し送り、職員会議等で聞き取り、また、状況に応じて個別面談も実施して把握しており、出された意見は、全員で検討して業務やサービスの改善に繋げている。また、外部研修の参加や資格取得についても可能な限り希望にそってバックアップするなど、より良い職場環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務については職員の意向にできる限り添うようにしている。月毎のレクリエーション担当を決めて、やりがいを持って就業できるようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月事業所内で勉強会を開催するとともに、外部研修の案内の紹介も行い、希望者は受講できるようにしている。資格取得に向けた支援も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡会や介護サービス事業者等連絡会へ参加して、情報の交換や勉強会を行いサービスの向上が図れるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の生活歴や身体機能、要望等をアセスメントして、本人の意向に添える生活が実現できるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>要望は出していただき、事業所としてはできる限り要望に添えることができるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>望む生活が実現できるよう、適切なサービスの提示もさせていただいている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に支え合う関係を大切にして、洗濯物たたみや掃除、調理等できることはできるだけ一緒にしていただけるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密に取りながら、共に支えていく関係が築けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる家族や知人を歓迎し、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。馴染みの美容院へお連れしたり、かかりつけ医院への受診援助も行っている。	利用開始時に本人や家族、関係機関から、生活歴、病歴、家庭環境、地域の人との交流状況、趣味、嗜好等を聞き取り、台帳に整理して状況を共有している。本人の希望に沿って行事への参加や買い物、墓参、一時帰宅等、馴染みの人や場との関係が途切れないように家族と連携して支援しており、その状況は「業務日誌」に記録している。遠方の家族とは電話や手紙の取り次ぎにより関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝体操とレクリエーションを行い、入居者同士が交流できる機会を設け、お互いを気遣うことができる関係が構築できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の施設や病院を訪問したり、家族とも連絡を取るなどして関係継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別に要望を聞いたり、日常の関わりの中で思いを把握できるようにしている。入居者の意向については、職員間で共有できるように連絡帳を活用したりしている。	日々のケアの中で思いや希望の把握に努め、尊厳やプライバシーに配慮しながら本人の暮らしがより良いものとなるように家族とも連携して取り組んでいる。特にぬり絵や押し花、手芸、新聞読み、花鉢の手入れ等の趣味の取り組みに対しても、申し送りや職員会議で対応を検討し、可能な限り本人の希望に添って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや入院先からの情報以外にも、本人や家族から聞き取りを行い、これまでの生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者と接する中で、できることや興味のあることを見だし、充実した生活が送れるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人、家族の要望はもちろんのこと、主治医や職員の意見を参考にして実情に即した介護計画が作成できるようにしている。	本人・家族の意向及び主治医を始めとする関係者からの情報を基に意見交換して、より良い暮らしが出来るように介護計画を作成している。ケアの状況は「業務日誌」や「介護記録」に詳細に記録され、モニタリングも定期的実施して介護計画に反映させている。利用者の状況変化にも実情にあった計画の見直し及び修正を適切に行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、日々の様子やケア内容を記録している。又、職員連絡帳を活用して情報の共有を図り適切な対応ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて臨機応変に対応し、柔軟な支援が行えるようにしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまで生活して来られた繋がりを大切にし、暮らしの幅が広がるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の決定は、本人や家族の意向に沿う様になっているが、訪問診療が可能な医療機関や協力医療機関の説明もさせていただいている。受診付き添いを行い主治医との連携を図っている。	利用者の入所前の既往歴や受診の状況は十分に把握されており、本人や家族が希望する医療機関での受診を支援している。、通院の他、訪問診療、往診も利用しており、通院に際しては家族もしくは職員が同伴し受診結果は個人ファイルに記録されており、家族との情報交換も適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>午前、午後の健康チェックで異常の早期発見ができるようにしている。異常時は報告相談を行い医療機関や家族へ連絡して受診援助をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は医療機関へ情報提供を行っている。入院先を訪問し、家族との情報交換も行いながら回復状態に合わせて退院支援に結び付けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に終末期や重度化した場合の対応についての意向を伺っている。医療行為が常時必要になった場合は対応できない場合もあることを説明しているが、事業所としては可能な限り意向に沿いたいと考えている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入所時に「重度化した場合の対応に係る指針」で説明して本人や家族の同意を得ている。これまで看取りの実施はないが、今後は、希望に添って主治医や訪問看護と連携してホームで可能な限りの支援体制を構築することとしている。終末期対応における職員の不安の除去やケアの質の向上に向けて、職員会議や外部研修で取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDを設置し、職員は急変時の対応ができるように定期的な訓練を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署や地域の方にも協力をいただき、火災や地震に備えての避難訓練を定期的の実施し、指導と協力をいただいている。</p>	<p>夜間想定を含む通報、避難、消火の訓練を消防署や自治会長も参加して年2回実施しており、隣接の特別養護老人ホームや近隣の住人との協力体制も築かれている。災害発生に備えて飲料水やレトルト食品、缶詰などをリストを作って備蓄しており、懐中電灯やカセットコンロ、ラジオ等の整備及び自家発電や自動通報装置、スプリンクラーが設置されている。火災訓練の実施については、家族に「毎月のおたより」で事前に通知するなど参加の呼びかけを検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇マナーマニュアルを作成し、言葉遣いや対応の仕方について気をつけるようにしている。</p>	<p>利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応を行わないために計画的な研修の実施の他、日々の支援の場で職員間で注意し合う等、常に意識して実践に努めている。特に言葉づかいについては、本年度の努力目標に掲げマニュアルも作成して、適切な対応に取り組んでいる。個人記録の取り扱いや居室、浴室、トイレについてもプライバシーの確保に徹底した配慮がなされている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思いが表出できるような働きかけを行い、本人の思いを尊重するようにしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>体調や体力に合わせて、本人のペースで過ごしていただいている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>散髪は職員が本人の要望に応じて実施している。洋服も本人に選んでいただき着用していただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや片付けなどできる方にはいただいている。手作りのおやつや行事食など工夫して提供している。	利用者の嗜好や身体状況、栄養バランスに配慮し、差し入れの食材も活用して季節感のある食事の提供に努めている。おせちや誕生会、敬老会等の行事食のほか、弁当持参の花見、誕生会やクリスマス会のケーキ、餅つきやそば打ち、手作りのおやつ等、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや減塩に配慮し、個々に合った食事形態と量を提供している。十分な水分摂取ができるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い実施している。できるところはしていただき、できない部分は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛けや本人の訴えに応じてトイレ誘導し、可能な限りトイレで排泄できるようにしてオムツ代の軽減や排泄の自立が図れるようにしている。	利用者の見守りやバイタルチェック表で、それぞれの排泄パターンの把握に努め可能な限りトイレで排泄できるように支援している。職員は利用者個々に合ったケアの方法を話し合い介護計画に反映させて支援に取り組んでおり、入所時より改善が図られた利用者も見られる。トイレ誘導や汚した衣服の交換に際しては、特にプライバシーに配慮した対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や運動量、食事内容に配慮し、排泄状況をチェックして服薬管理に反映させている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には午後からの入浴で体調を考慮して個々に合った入浴支援を行っている。浴槽内での足のマッサージを希望される方もおられる。希望により毎日でも入浴できるようにしている。	入浴は2日に1回が基本であるが、毎日入浴の希望にも柔軟に対応している。個浴で介助しており利用者の好みの温度やシャンプーに配慮してゆっくり楽しんでもらうよう配慮している。入浴を渋る利用者には無理強いしないで、声掛けや介護者、時間の変更等の工夫で利用者の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に入床でき、空調や採光にも配慮して気持ちよく休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてはいつでも確認できるように個別のファイルに綴り、変更があった場合は連絡ノートに記載して職員へ周知して観察を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や興味のあること好きなことを把握して、気分転換ができて生活が充実したものとなるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行きつけの美容院や親戚のお宅訪問等付き添い行っている。家族の協力により帰宅も行えている。四季折々の風物や景色が楽しめる外出支援を心掛け行事計画に盛り込んでいる。	利用者の健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って、家族とも協力して日常的に散歩や、ミニドライブ・墓参り・買い物・一時帰宅などに出かけている。また行事計画にも組み込んで、初詣、花見、地域の行事（つるし雛や諏訪神社の祭り見物）など、可能な限り楽しく外出できるように工夫しており、利用者の身体能力に応じて、リフト車や車いす等も適切に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として事業所で保管しているため、必要な物はいつでも購入できるようになっている。お金を所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される方にはかけたり取り次いだりしている。手紙を書かれる方については職員が投函している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルや玄関に飾ったり、様々な作品を掲示して居心地よい空間づくりに努めている。	広大な敷地に、木材を基調とした平屋建てのホームは全体的に余裕のある造りで、リビングの天井は高く天窓があり、テーブルセットやテレビ、マッサージチェア等が適切な間隔で配置されている。畳部屋やウッドデッキも設置されており、生花や花鉢、利用者の作品、写真等が飾られて、季節感のある和やかで落ち着いた雰囲気となっている。二重サッシの窓や三層構造の床になっており、空調、採光、防臭にも細かに対応して居心地良く過ごせる環境づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓際に椅子を置いて気ままにくつろいでいただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族の好みの物を持ち込んでいただき、生活しやすい空間を作っている。	フローリングに掃出し窓仕様の居室には、ベッド、エアコン、クローゼット、ナースコールが備えてある。家庭と同様に落ち着いて過ごせるように、家族写真や使い慣れた小タンス、整理棚、食器、小物等が持ち込まれて、その人らしい和やかな空間となっている。清掃や整理整頓にも十分配慮されて衛生的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内は全てバリアフリーで、必要な個所には手すりを設けている。安全に移動する為の歩行器や杖、シルバーカーを利用して可能な限り自立した生活ができるようにしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識できるよう朝の申し送り後に理念と今年度の運営方針である接遇マナーの向上について唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して総会や清掃活動などの行事に参加している。又、同敷地内にある小規模特養との合同夏祭りをを行い、地域の方々にも多数足を運んでいただき交流を図っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	特養との合同夏祭りをを行い、地域の方々に参加していただいている。又事業所発行の便りを配布したり、運営推進会議で現状報告をして理解を深めていただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際を報告し、サービスの向上が図れるように積極的に率直な意見をいただき、事業の運営に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や地域密着型サービス連絡会・介護事業所等連絡会で事業所の実情を伝え助言や協力をいただいている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の学習を定期的に行い拘束を行わないケアに努めている。又、言葉による拘束もないよう職員同士注意し合っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会で高齢者虐待防止について学び、職員同士注意を払い防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用されている方がおられる。勉強会を開催し、制度理解に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>事前に入居希望者や家族に見学に来ていただき、パンフレットや重要事項説明書に基づいて分かりやすく説明するようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者や家族等に意見、要望が言いやすい関係、環境作りを心掛けている。出された意見には可能な限り沿えるように努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議や申し送り時の他にも日頃の会話の中で意見を聞く機会を設け、意見が反映できるように努めている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務については職員の意向にできるだけ沿えるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会へ参加できるよう支援を行っている。事業所内でも毎月勉強会を行い職員のスキルアップを図っている。又、資格取得の支援も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡会や介護事業所等連絡会へ参加し、意見・情報交換や勉強会を行い交流を図るとともにサービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや要望を理解し、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より要望を出していただき、事業所としてできる限り要望には添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望む生活ができるように適切なサービス利用の提示もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる範囲で洗濯物たたみや片づけ等を一緒に行うようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にして、共に支えていく関係が築けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる家族や知人を歓迎し、ゆっくり過ごしていただけるように、お茶やお茶菓子をお出ししている。又、かかりつけの病院への受診援助を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操やレクリエーションで入居者同士が交流できる機会を毎日設け、お互いが関わり合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られてからも訪問・面会を行い関係継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で一人ひとりの思いや生活の希望を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・病院等からの聞き取りや情報提供書を利用して暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態が把握できるように、個別の介護記録に日々様子を記入している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族・主治医・職員からの意見を反映して介護計画を作成するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケア内容を記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまで生活してきた繋がりを大切にし、暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿った医療機関を受けられるよう支援している。受診付き添いや主治医の意見を聞き連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や健康状態を把握し、状態異常時には医療機関や家族へ報告・連絡を行い、適切な対応が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ情報提供を行っている。定期的に面会に行き病院関係者との情報交換と状態把握に努めている。家族・病院と連絡を取り退院に向けての支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた研修会に参加し事業所で勉強会を行っている。医療機関との連携を図り、本人や家族の意向に沿えるよう事業所で可能な限り対応するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にAEDを設置しており、急変時には対応できるように講習を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に対応できるように年2回、避難訓練を実施している。職員が寝たきりの利用者の役をして、毛布を使った避難も行っている。災害時の備蓄も確保している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや要望に耳を傾け、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、本人の体調やペース・習慣に合わせて生活していただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服装は季節にあったものを本人に選んでいただいている。希望があれば本人の健康状態に考慮した買い物支援や事業所の職員が散髪を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの把握や食べやすい形態で提供し、安心と楽しみを感じていただけるようにしている。食前・食後の台拭き等できる範囲で協力していただき、誕生会や正月等には行事食を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや減塩に配慮している。一人ひとりにあわせた食事形態や量を提供し、水分摂取の少ない利用者は計測・記録し、水分が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、一人ひとりの能力に応じた支援をしている。夜間は義歯の洗浄を行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態の把握や訴えに耳を傾け、排泄表を参考にトイレの声掛け、誘導を行い失敗を減らし自立支援に繋げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、服薬管理・水分補給・運動・食事の工夫を行い便秘の予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	午後、一人ひとりの状態や意向に沿って支援している。希望があれば毎日でも入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状態に応じて自由に休息ができるように支援している。又、安眠できるように室温や照明に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個別ファイルに綴り、いつでも確認できるようにしている。薬の変更等は連絡ノートや申し送り時を通して職員に伝わるようにし状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や日常の会話を参考に得意なことや興味のあることをしていただき、役割や楽しみ、気分転換が図れるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日は外気浴や散歩を行っている。四季折々の花見学や行事ごとの外出支援を行い、四季を感じていただけるよう支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預かり金として施設で管理しており、希望があればいつでも買い物ができるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば電話を掛けたり手紙のやり取りができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天井が高く、ゆったりとした空間が確保されている。所々に花や利用者で作成した作品・写真等を掲示し、居心地よく季節感を感じられるようにしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれの席で新聞やテレビを観ていただいたり、マッサージをされるなど自由に過ごしていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた物などは本人や家族と相談し持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーになっており、浴室やトイレなどには手すりがあり安全で自立した生活が送れるようにしている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない